

農業分野における県内の動向

農政部

項目	内容
受入状況	<p>○技能実習生は、平成12年から中国人の受入れを開始し、平成26年からベトナム人が増えている。現在の受入状況は、6割がベトナム、次いで、中国、カンボジアの順。 ※技能実習生:198人(ベトナム120人、中国75人、カンボジア3人)の受入れを確認(平成31年4月1日現在)</p> <p>○技能実習生の受入先は、野菜(トマト、ホウレンソウ、ダイコンなど)、花きなどの園芸品目が約7割、残りは、菌床しいたけ、畜産。 受入所在地は、県内12市町で、多い順に、高山市、郡上市、岐阜市、瑞穂市。</p> <p>○新たな在留資格の特定技能制度について、飛騨地域でトマトやホウレンソウ、採卵鶏などの4経営体(高山市2、飛騨市、下呂市)が、過去に技能実習2号を修了したベトナム人を雇うために本制度による雇用の手続きを実施。 うち1経営体(下呂市)が、10月6日から受入れを開始した。</p>
課題	<p>○外国人の受入れには宿泊場所が不可欠であるが、農村地域では、民間のアパート等が少なく、確保に苦勞している。民間のアパートを確保できない場合、受入農家が自宅を改修するケースがあり、費用面で負担となっている。</p> <p>○外国人従業員が関わる職場内、地域内でのトラブルが発生した場合に、コミュニケーションがうまく取れず仲裁できないケースがある。</p> <p>○多くの技能実習生を受け入れている飛騨地域では、農繁期以外の仕事の確保が課題となっている。</p>
行政に望む支援	<p>○外国人の宿泊場所として自宅を改修等整備する場合の支援。</p> <p>○外国人の日本語やマナーの習得への支援。外国人と十分なコミュニケーションが取れる人材を各地域に配置。</p> <p>○冬場の仕事として、他品目の新規導入、農産物加工など経営改善への支援(施設整備や経営面・技術面のアドバイス)</p>
その他	<p>○「ぎふアグリチャレンジ支援センター」に、外国人の雇用に関する経営体向けの窓口を設置(4月1日開設)し、相談対応や制度PRを実施。</p> <p>○農業経営体、市町村等との意見交換等 ・市町村、JAとの意見交換(7月29日～8月7日) ・農業経営体との意見交換(7月29日～9月25日、4経営体)</p>